

個人研修報告 in Germany



社会福祉法人飛鳥学院 児童養護施設飛鳥学院
児童指導員 竹島隆二

2ヵ国目はドイツにおいてソーシャルペダゴジーや補完性の原理をテーマにしていた為、児童養護施設に限らず社会的養護の役割であるセフティーネットとして活動している団体、施設(病院含)にも研修させて頂き、全体観も理解するように意識した。

1. Baby Fenster (Elisabeth Krankenhaus Essen) ～赤ちゃんポスト～ 【エッセン】

赤ちゃんポストは2000年、世界で初めてドイツで開設された。日本では、熊本の慈恵病院が設置している赤ちゃんポストが有名である。ドイツ国内には約100ヵ所ある。また、昔は「ベビークラブ」と呼んでいたが、最近はベビーフェンダーという言葉を使う。理由としては、ドイツにおいて「クラブ」とはゴミ箱のふたを連想させてしまうので、「フェンダー」を使うことで赤ちゃんの窓とし、赤ちゃんの輝ある未来の窓といったようにポジティブに捉えられるようにとの思いからだそうだ。仕組みは下記、写真と共に。



外から見た写真

開けるとベットに手紙

中から見た写真

➔ ①母もしくは父が預けにくる ➔ ②開けるとベットがあり ➔ ③1分後にアラームがなり、看護師が確認

道に大きく看板がある

親宛の手紙がある

医師が健康チェック。

色々の権利や様々な立場からの意見があり、ドイツでも全員が賛成してるかと言われるとそうでもない。でも、どうしようもなく悩む親がいて、そこに子どもの命が間違いなくあるのだから、そこに手を差し伸べてあげるのが、我々の役目でもあると話されていた。良い悪いは別として、日本が普及しない要因としては、ドイツと日本では社会的養護に対するポジティブ感の違いではないかと分析されていた。

2. FRIEDENSDORF INTERNATIONAL (ドイツ国際平和村) ～人道援助団体～ 【オーバーハウゼン】

ドイツ国際平和村は1967年にプロテスタントのフリッツ・ベルクハウス牧師と当時オーバーハウゼン市長だったルイーゼ・アルベルト市長によって設立された。紛争で被害を受けた地域や危機的状況にある地域の子どもたちを救いたいという情熱を持って市民たちを巻き込み、たくさんの協力を得て今に至る。母国で治療を受けられない戦争で傷ついた子ども達への治療を協力病院が無償で行っており、その治療を受けた後、ここにきてリハビリを受けながら共に生活し母国に帰る日を待つ。ほとんど全てが寄付やボランティアで成り立っており、設立者の想いをこの地域全体で受け継いでいっていることに感銘を受けた。「子ども達の母国への帰国」は必ず実行されるべきだという活動の信念がある。子ども達は母国の家族のもとで生活し、そしてそこで医療が受けられることが一番望ましい。その為「現地プロジェクト」や多くの人に知ってもらう為の「平和教育」にも力をいれている。

現在、子ども達は約170名ほどいてほとんどがアンゴラやアフガニスタンといった貧困国からである。子ども達と関わる中で子ども達は皆明るく笑顔である。案内して下さった中岡様が「子ども達はこうして様々な国の子達と関り助け合い仲良くできるのに、何で大人はできないんだろうね」とおっしゃった言葉が印象的であった。本当にその通りだ。子ども達のエンパワメントの大きさを改めて感じた日であった。



3. Haus St. Josef (Katholische Stiftung) ～児童養護施設～ 【デュレン】

1日かけて施設を紹介して頂いた。また、日本とドイツの違いや支援についてディスカッションさせて頂いた。子どもは約130名おり大規模な施設である。しかし、日本の児童養護施設とは少し機能が違う。ドイツには児童相談所がない為、市の青少年局がその役割を果たし、一時保護所もない為、児童養護施設がその役割を果たす。一時保護の役割を果たすグループや、日本でいう母子生活支援施設のような役割を果たすグループ、児童心理治療施設のような役割を



果たすグループ、さらには難民も受け入れている。棟がそれぞれ分かれていて、各ホーム7～9名の児童もしくは母子・父子・家族で生活している。

ドイツには民間優位の原則、いわゆる「補完性の原理」がある。その為、各市によって必要なサービス、支援等の違いに柔軟に対応している。この施設入所に関わる分野でもやはりそれは明らかで、日本の場合は全て児童相談所経由だが、市と施設の間で入所の判断もできる。一番驚いたのは、この施設においては高学齢児の入所についてはほとんどが子ども本人からの申し出によるものだとのこと。子どもの入退所状況として2023年は入所が155名で退所が146名。退所児の入所期間は3ヵ月以内が20%、1年以内になると40%、2年以内になると70%になる。5年以上入所していた子はわずか4%である。

4. Raphaelshaus (Das Jugendhilfezentrum) (児童養護施設) 【ドルマーゲン】

ここでは3日間実習をさせて頂いた。ここはさらに大規模で約250名の子どもがいる。とにかく広大な敷地で、こちらもグループごとに呼び方は違うが上記と同じような機能・支援を行っている。それだけでなく、馬やアルパカ、犬なども多く飼っており、動物を利用したペットセラピー的な支援、スポーツ教育及び支援、音楽教育及び支援と入所者だけでなく地域に向けた教育も数多くしている。私はこの「Horst-Wackerbarth (ホルストヴァッカーバース) グループ」というグループで3日間実習させて頂いた。日本でいうところの児童自立支援施設に近いが、それよりもさらに日課やルールに厳格であった。ケースとしては犯罪を犯した子、性加害を起こした子等だ。このグループは7名の子ども達が在籍している。このグループではグループ目標と個人目標が設定されており、気持ちの言語化という部分を徹底的に行っていた(問題を起こしてしまった原因はいずれも気持ちを言語化できていないという点に集中してケアしているとのこと)。毎日夕食前には「VOICE」と呼ばれる今日の自分の目標に対してどうだったか自己評価を行い、それに対して周りの子ども達とスタッフから他者評価をもらう。その際にも約束があり、言う事は言うが相手を傷つけないような言い方や表現をするよう徹底されていた。



5. 感想

ドイツの児童養護施設における入退所者数は日本では到底想像できない数字だ。しかしこの数字が、ドイツ社会において社会的養護(施設養護)の立ち位置を表している。Baby Fensterでも言っていた通り、社会的養護に対してドイツはポジティブだ。日本は最低基準に従って運営される民間施設、社会的養護(施設養護)は親による家族養護を前提とした最終手段という考え方であるのに対し、ドイツはペタゴギック(社会教育学的)な「教育施設」として児童や若者とその家族のために積極的に活用されるべきという考え方なのであろうと感じた。その故、ペタゴとしてスタッフの知識や経験、役割も非常に大きいし、尊敬される職種なのだと感じた。

番外系高

Part. 2

ドイツと言えば、車好きにはた
アウディー、ボルボ、フォルクス
と高級車のオンパレード！街を歩い
では見ない車種が盛りだくさん。



まりませんよね！BMW、ベンツ、
ワーゲン、MINI、それからボルシェ
ているだけで次から次へと日本
1日見てられます！

●そんなドイツで大人の社会科見学です

- ①社会的養護は宗教的背景が非常に強いのでその想いを感じるためなるべく多くの聖堂へ 🏰
- ②ドイツと言えば…車以外にも有名なあれとあれ！あれも観戦！



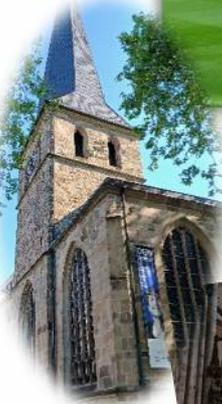
↑フンテスリーグ観戦
←エッセン大聖堂



←ケルン大聖堂 圧巻のスケール



あれとあれが
食べ呑み放題！
水よりビールの方
が安い！



ドイツ豆知識…スーパーでくしゃみをしたら全然知らん周りの人から「Gesundheit(ゲズントハイト!)」と言われ「はぁ？」ってなったのですが、どうやらドイツでは当たり前の習慣で「お大事に！」って感じらしいです。是非、皆さんもドイツに行ったら試してみてください！ツウになれますよ☺

●ドイツでも最高の通訳者に出会えました！



AKIKO さん ☆



KOTA さん ☆
(ドイツ研修の殆どのアテンドをして
下さいました！)



YOSHIE さん ☆
(子どもとの関係作りに最高の役割)



ARUPAKA さん